

日本食品企業における多角化戦略の一考察

毛 金瑤（埼玉大学大学院）

研究背景：

事業多角化（Product Diversification）：事業多角化とは、企業が関連するまたは非関連な製品領域に展開することを指す。具体的には、供給チェーンの上流や下流に進出する縦の多角化や、異なる製品領域に進出する横の多角化が含まれる。

国際多角化（International Diversification）：国際国際多角化とは、企業が異なる地理的領域に事業を拡大することを指す。この戦略により、特定地域におけるリスクを軽減し、広範な市場機会や資源を得ることができる。具体的な例としては、異なる国々の市場への進出や、生産施設の設立が挙げられる。

現在、グローバル化が進む中で、多くの企業が単なる事業多角化を展開しているだけでなく、国際地域的な拡大を伴う国際多角化を追求するようになっている。しかしながら、多くの研究は一つの側面に焦点をあてる傾向があり、事業多角化と国際多角化の双方に関する業績への影響の研究はまだ限れている。そこで、本研究は、多角化は企業の業績への影響について、事業多角化と国際多角化という2つの側面から実証分析することを目的としている。

研究対象：

本研究では、2017 年から 2022 年東証プライムに上場している日本の食品企業を対象に選定し、グローバル範囲で事業進出がある企業をサンプルとして抽出した。パネルデータ回帰を用いることで、事業多角化と国際多角化の両者が企業業績に及ぼす影響に焦点を当て、その関係性を深く理解しようとする。

具体的には、事業多角化の観点から、企業が異なる製品分野に展開することが業績との間にもどのような関係があるかを調査する。同時に、国際多角化の側面では、企業が異なる国や地域に展開することが業績にどのような影響を及ぼすかを検討する。これらの分析を通じて、多角化戦略が企業業績に与える影響を明らかにし、多角化戦略の追求に際して企業が直面する変化と課題をより詳細に理解することを目指す。

研究意義：

本研究は、実証分析を通じて、異なる多角化の側面が企業業績に与える影響を包括的に理解し、企業の戦略的意思決定に対してより正確な指針と提案を提供することを期待している。また、企業の多角化戦略の策定と実施において実務的な価値を提供し、学術研究においても理論的かつ実証的な充実をもたらすものと考えている。